

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3471501274		
法人名	社会福祉法人常新会		
事業所名	グループホームやすらぎ なごみチーム		
所在地	広島県福山市曙町3丁目17-5		
自己評価作成日	令和3年4月4日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 あしすと		
所在地	広島県福山市平成台31-34		
訪問調査日	令和3年5月12日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

入居者様の得意なことを活かし、活躍できる場を作っています。調理が得意な方には、食事作りでみそ汁や小鉢を一連で作っていただいています。掃除が得意な方は、職員と一緒に居室やホールを掃き掃除しています。
 屋前には、体操を行っており、立ってできる方には出来るだけ立っていただいています。
 下肢筋力低下防止のため、出来る方とは階段昇降やベランダ歩行を行っています

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所周囲は、大型のスーパーや病院・レストラン・商店などが集まった住宅地域にある。コロナ禍以前には、地域住民との交流を大切にしており、地域に根ざした事業所といえる。また、職員用の保育所が設置されており職員の安心と共に、利用者と園児が芋ほりを楽しむ様子も見られる。優れている点として、①利用者の思いや得意なことを理解し、家事活動(洗濯物たたみや食事つくりなど)を軸にした支援を行なっている。②コロナ禍にあるが、感染予防に留意しながら利用者の希望や回想から昔懐かしい行事の開催や食事支援を行なっている。③利用者の様子を動画撮影し家族に見てもらったり、テレビ電話での面会・短時間の面会などコミュニケーションの工夫に努めている。④ライフチャートで利用者の一日を把握し、アセスメント表・介護計画などの書類の整理・充実がしていることが挙げられる。職員は、利用者の起床から入眠までの一日の流れを大切にしており、朝のあいさつやラジオ体操・夕方の体操など運動状況を把握し、一人ひとりの生活にあわせた自由な暮らしを大切にしている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

特定非営利活動法人 あしすと

自己評価および外部評価結果【なごみチーム】

〔セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。〕

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人理念である「利用者の満足を第一とする」「地域・社会への奉仕と貢献」の社訓を踏まえ、日々の業務に努めている。また、各事務所、玄関に理念を張り出している	法人理念をユニット毎の玄関と事務所に掲示し、共有している。ユニット目標に沿ったケアができていないか半年ごとに振り返り、実践に繋げている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	地域の行事は中止となっていることが多いが、月に一度の幹線道路の清掃は、変わらず参加している。	町内会に加入しており、地域の情報は回覧板で確認している。月に一度の掃除には各ユニット一人ずつ参加し、地域住民や家族との交流がある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	外部との接触を制限している中で、地域の人々に向けての情報発信は出来ていない状況です。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	新型コロナウイルス蔓延のため、実施できていない。	コロナ禍のため、町内会長・包括・民生委員の参加は困難であった。100歳体操の管理者へ連絡するなど情報提供や交流がある。	運営推進会議メンバーへ事業所内の現状報告を行うなど、意見やアドバイスがもらえるよう関係の継続を期待します。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市町村との窓口は担当者を決め対応している。市町村からの意見は、現場スタッフへと伝達し、早期に対応できるようにしている。	施設長が窓口となり、介護保険課・生活福祉課と連携し情報共有をしている。地域包括から空室状況の問い合わせがあるなど協力関係を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	日中の玄関の施錠や、寝室周囲も入居者の動きを制限することの無いよう、環境に配慮している。また、言葉、身体、薬物等による拘束も無いよう、勉強会を開催している。	2ヶ月毎に身体拘束・虐待防止委員会を開催し、困った事例を挙げてユニットごとで検討している。優しい言葉かけや対応の工夫により、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体拘束・虐待防止委員会を設置し、事例を基にした、勉強会を定期的に行い、スタッフの理解を深めている。困難事例は、事業所全体で考え、虐待へと繋がることのないよう、対応策を検討している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	入居者の中にも成年後見人制度を利用し、入居されている方もおり、その都度、ミーティングなどで勉強会を行い、制度について理解できているか確認している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約については、契約書と重要事項説明書を元に説明し、納得されたうえで、契約に至るようにしている。解約については、上司立会いのもと、お互いが納得した上で解約にあたる		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	支払い時など日々の生活の中で話し合える機会を作っている。また、玄関に苦情箱を設置し、苦情が出た際は、施設全体を通して、改善できるように努めている。	利用者からは日常生活の中で、家族からは支払い時やメールのやりとりで意見を聴いている。要望から、利用者の動画をみてもらったり、テレビ電話での面会・短時間の面会などへ反映させている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	リーダー会議を隔週木曜日に開催し、法人全体での決定事項や各ユニットの入居者、職員の状況について話し、状況を把握し、取り組みの進行状況を確認している。	各ユニット毎のミーティング月2回開催され、職員の意見を把握している。利用者の要望をもとに、担当職員が行事を企画したり、利用者が座って調理が行なえるように調理用の机を購入するなど反映させている	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	各職員の得意分野を生かし、それぞれに仕事を任せたり、中心になり働いてもらう機会を作るようにしている。また各職員は目標を立て、それに向けて努力している。自己評価が出来、各自のアピールが出来る。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新人職員・中途採用者には、能力開発プログラムを用いて、指導担当をつけ、指導している。隔週の月曜日に早朝勉強会を開催し、また、年1回の研究発表にて発表する機会を設けている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他施設への見学や講演会、研修などに参加し、同業者と交流する機会を設けている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	新しい環境に慣れて頂くために、困っていること等は納得されるまで話を聞き、ご本人の要望と御家族が求められていることを入居時に把握している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前の情報を基に、事前アセスメントをきちんと行い、在宅時、あるいは、前の施設での生活を十分把握し、持続可能な能力を最大限活用し、同様の生活が送れるようにしている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人、家族の思いを状況や状態を確認しながら対応を検討している。判断できない場合は、チームミーティング、リーダーミーティングにて相談するようにしている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人、職員共に一緒に家事活動(食事作り、洗濯たたみ等)を行なっている。その中で、慣わしや知らないことを教わり、日々の生活の中で実践するように努めている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時や、毎月の通信送付、電話連絡にて、本人の様子、状態を詳しく伝えるようにしている。体調の変化があれば、すぐ伝えるようにしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	新型コロナにより、自宅への外出、家族様との外出が出来なくなっている。 関係がき薄にならないよう、定期的に電話で会話をさせていただいている	コロナ禍のため、外出が困難となっている。テレビ電話での面会や電話のとりつぎでの関係継続の支援をしている。家族へ月ごとに通信や手紙を郵送して様子を伝えたり、家族・友人へ手紙や年賀状を書く支援をしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者の輪の中に職員も入り、一緒に家事活動やアクトを行なっている。それぞれの入居者の出来る所を分担してもらい、間に職員が入り、入居者同士が関われる機会を作っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	病気などで転院や転居があった場合でも、それで終わるのではなく、退居後の様子を電話や面会等で伺うようにしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	自分の思いが伝えられる方に関しては、本人の思い、希望を聞くようにしている。重度となり聞くことが出来ない方に関しては、家族の方に聞きながら、把握するよう努めている	普段の生活の中で、利用者の好みや思い・希望を聴くように努めている。職員で情報を共有し家族にも伝達し反映させている。困難な場合は、家族からの情報や利用者の仕草・表情から本人本位に検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	日々の中で、本人からの会話や家族面会時などに生活歴を聴き、教えてもらった情報を記録に残し、職員間で共有できるようにしている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	各入居者の1日毎の生活の様子がわかる記録用紙に記入し、把握に努めている。また、体調不良などは、ドクターノートというものに記入し、職員全員が目を通すようにしている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人の状態等について月2回のチームミーティングにてカンファレンスを行い検討している。家族面会時にケアについての要望を聞き、その意見要望が反映できるようにしている	入居前の情報から計画をたて、1ヶ月は暫定で対応している。アセスメント表で本人の強み・弱みを記載し把握している。カンファレンスでは、家族・医師・歯科・看護師の意見を取り入れ、担当者が介護計画を作成している。3ヶ月毎もしくは状態変化時にモニタリングや見直しをしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	2週間に一度のチームミーティングで情報提供している。また、家族情報は家族ノート、スタッフ間の連絡は連絡ノート、医療面はドクターノートに記入し、カンファレンス、ケアプラン作成などで活用している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族の状況、その時々々の要望などに少しでも答えられるようにミーティングなどで意見を出し合っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	新型コロナ以前は、祭りを開催する際は、地域からボランティアに来て頂いていた。また、入居者が迷子になった場合は、近くに交番にも協力をお願いしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	週に1回、主治医の往診がある。必要に応じて主治医と家族の話し合いの場を設けている。状況に応じて、専門医(皮膚科等)の受診が出来るように支援している。	各ユニットごとの主治医が毎週往診している。専門科には家族や職員で受診の支援をしている。夜間や緊急時は、それぞれ主治医の指示を受けて適切な医療を受けられるように支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	気になる事があれば、すぐに看護師に連絡をし、相談できる体制が出来ている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院された場合は、病院と情報交換をしたり、連携に努めている。 入院によるレベル低下を防ぐ為、医師と相談しながら、なるべく早く退院できるように、状態の把握に努めている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	状況に応じて、家族、主治医、看護師、介護職員とで、今後の事について話し合いの場を設けている。家族の気持ちや思いを大切にしている。気持ちが変わることもある為、定期的に家族に確認する	入居時に、事業所でできること・できないことの説明を行い、同意・了承を得ている。重度化した場合には、医師から家族に説明を行い、その後も意思確認や状態など情報を共有し、医師・看護師・家族とチームで支援に取り組んでいる。看取り時など、振り返りの話し合いを持ち職員で共有している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時、事故発生時の対応は、勉強会などで確認するようにしている。また、急変時マニュアルを作成している		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	訓練を定期的に行っており、避難経路の確認、消火器の使用方法を学んでおり、演習訓練を行なっている	地震水害避難訓練・通報消火避難訓練を年2回、昼間設定で行っている。夜間の避難については、消防署から借用しDVD学習をしたり、水害を想定し階上へ避難するなど職員全体で災害時の対応や情報を共有している	災害時の非常用物資の備蓄、災害対応体制を確立し、今後活かされることを期待します。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個々にあった対応、ケアを行なうため、チームミーティングにて情報を共有している。 入浴、排せつ等、羞恥心に配慮している。大声で聞いたりなど言葉かけにも配慮している	接遇・権利擁護について、法人全体で研修をうけている。利用者一人ひとりのできること・得意なことを尊重し、個々の性格や生活様式にあわせて対応が出来るよう努めている。本人・家族の承諾を得て、馴染みの呼称で名前を呼んでいる人も入る。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人が希望や自己決定が出来るように、会話の中から問いかけてみたり、広告やテレビなどを見ながら、話を引き出すよう努めている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者との会話を大切にしている。したい事、行きたいところはないか聞くように努めている 声がかけれない場合は、こちらからそっと声かけを行うようにしている		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	くしや歯ブラシ、髭そりなど利用者が使いやすいように環境設定を行い一人ひとりにあった身だしなみの声かけなども行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	おかずを一連で作れる方とは一緒に作り、難しい方には、皿ふきや皿洗い、もやしの根取りなどの簡単作業をしていただいている。季節の食材を使用し、時には弁当箱盛にし、目で楽しんでもらっている	昼食・夕食の献立はその日の会話の中で決めて、職員と利用者と一緒に調理している。4ユニットが協力して畑で野菜を作り収穫をしている。誕生日会には利用者の好物の赤飯・唐揚げなど、季節行事ではちらし寿司・甘酒・おはぎを作るなど利用者の楽しみとなっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量、水分摂取量など日々の記録に残し、把握できるようにしている。栄養や水分量が偏らないように努めている。水分は一日平均1000cc以上を目安に摂取して頂いている		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、歯磨きうがいを行なっている。自歯がある方には、残渣が残っている場合がある為、仕上げ磨きも行う。義歯は毎日消毒している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	本人のトイレの時間、パターンを把握することに努め、尿便意を伝えることが出来ない入居者に対して、何らかのサインが見つけれられるよう、観察し、誘導出来るよう心掛けている	利用者のできること・排泄パターンを把握し、排泄支援を行っている。日中はトイレでの排泄を基本にしており、夜間は個々の状況に合わせて対応している。運動による下肢筋力の維持に努め、立位保持・便秘解消など排泄の自立に向けた支援を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	慢性便秘解消に向け牛乳、バナナ、ヨーグルト、ごぼう茶など過度の下剤服用を避けるためにもを提供するよう心掛けている。 便が出やすい時間、形状、嗜好品などもミーティングにて共有する		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴時間の取り決めはなく、いつでも入れられるようにしている。入浴出来ない場合は、清拭などで対応する場合もある。 湯船に入る事が難しい入居者に対しては、1階にある特浴に定期的に入って頂く。	本人の意思を確認し、希望する時間に入浴することができる。季節によりゆず湯にしたり、入浴剤をいれて、好みの湯温で入浴を楽しむことができる。拒否がある場合は、声かけの工夫や職員の交代など個々に沿った対応により支援をしている。同姓介助も可能である。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	入眠時間は個々に違うため、いつでも臥床できるように一人一人の表情や行動を観察し、入眠を促している		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服用されている薬の薬情報をドクターノートに入れて、各職員が把握できるようにしている。 また、往診時に薬が変更となった場合は、必ず記載するよう努めている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活歴、家族の話から本人の楽しみごと、嗜好品を調べ、提供できるようにしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	新型コロナウイルスのため、外出は出来ない。 中庭に出て太陽に当たったり、施設の周りを1周するなどしている	コロナ禍のため外出は控え、車窓からのドライブや近所の公園まで散歩にでかけている。事業所のベランダで洗濯物干しをしたり、畑の水やり・ごみ捨てや新聞を取りに降りるなど役割を持ち、気分転換できる機会を作っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金を自分で持ちたいと言われる方に対しては、少額のお金を財布に入れている方もおられる。お金の所在の確認を行い、申し送りの際に伝えている		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族への連絡を希望される場合には、家族と電話で話ができるようにしている。 手紙は本人宛に来る事はあるが、やり取りは出来ていない		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関やホールには、季節にあった飾りを飾ったり、入居者と一緒に作った作品を飾っている。 光がさすときには、カーテンやブラインドで調整している	各ユニットの玄関には、季節の製作物や生け花が飾られ華やかである。リビングは広く、回廊様のベランダに囲まれ、明るい日差しが差し込むと共に、利用者の気分転換の散歩場所となっている。ブラインドやすだれなど利用し、日差し・室温・湿度の調整を行い居心地よく過ごせるよう工夫している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	皆で集まってテレビを観たり、お茶をしたりできるソファやベランダ前、浴室前に一人でも過ごす事が出来る場所も用意している		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には、今まで家で使っていた馴染みのある物を持って来ていただいたり、家族の写真を飾り落ち着いて過ごせるように工夫している	利用者が使用していた筆筒や鏡台・冷蔵庫など利用者の状況に合わせて設置している。家族の写真や利用者の手作り作品などが飾られている。日頃から、利用者は職員と一緒にたきをかけたり、拭き掃除したり、居室の整理整頓を行っている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	歩行が不安定な方が、少しでも一人で歩けるように、居室の家具の配置を考え、ソファや椅子等をホール内に配置して休憩できるように工夫している。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3471501274		
法人名	社会福祉法人 常新会		
事業所名	グループホームやすらぎ だんらんチーム		
所在地	広島県福山市曙町3丁目17番5号		
自己評価作成日	令和3年3月23日	評価結果市町村受理日	

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

新型コロナウイルスの感染拡大の影響に伴い、ご家族様との面会の自粛や、施設における100歳体操を中心とした地域活動の停止、買い物など屋外での活動の自粛など、働き方が大きく変わった一年でした。力を入れた点としては、ご家族様と、入居者様の関係が希薄化せぬよう、動画を見せ、現在の施設でのご様子をお伝えしたり、お手紙のやりとりなど、知りたいことや不安な点は無いか確認し、より密になるよう勤めてきました。入居者様には個別ではありますが、オンラインでの買い物や、感染症対策など、集まつの勉強会は難しい時期もありましたので、YouTubeを活用して、動画での勉強会や、他事業所とオンラインでのweb会議など、今の時代に合わせた働き方に変えていこうと相談しながら取り組んでいます。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 あしすと
所在地	広島県福山市平成台31-34
訪問調査日	令和3年5月12日

事業所周围は、大型のスーパーや病院・レストラン・商店などが集合した住宅地域にある。コロナ禍以前には、地域住民との交流を大切にしており、地域に根ざした事業所といえる。また、職員用の保育所が設置されており職員の安心と共に、利用者と園児が芋ほりを楽しむ様子も見られる。優れている点として、①利用者の思いや得意なことを理解し、家事活動(洗濯物たたみや食事づくりなど)を軸にした支援を行なっている。②コロナ禍にあるが、感染予防に留意しながら利用者の希望や回想から昔懐かしい行事の開催や食事支援を行なっている。③利用者の様子を動画撮影し家族に見てもらったり、テレビ電話での面会・短時間の面会などコミュニケーションの工夫に努めている。④ライフチャートで利用者の一日を把握し、アセスメント表・介護計画などの書類の整理・充実がしていることが挙げられる。職員は、利用者の起床から入眠までの一日の流れを大切にしており、朝のあいさつやラジオ体操・夕方の体操など運動状況を把握し、一人ひとりの生活にあわせた自由な暮らしを大切にしている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	特定非営利活動法人 あしすと			

自己評価および外部評価結果【だんらんチーム】

〔セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。〕

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践に近づけている	事業所理念、運営方針は、事務所や、来客者の目に留まるところに張り出しています。振り返りを基に毎年、理念から目標、取り組みを職員全員で決めています。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	これまで、施設1階にて、「いきいき100歳体操」や地域住民が主体となった作品作りなどのサークル活動を施設で展開し、入居者共に巻き込みながら行っていたが、コロナ禍の状況となり、昨年3月から、ストップしている。しかし、コロナが終息した時には、再開できるようサークルの責任者とは連絡を取り合っている。また、月に一度の幹線道路清掃など、地域の一員として、施設外活動には参加している。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	外部との接触を制限している中で、地域に向けての発信も出来ていない。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	令和2年度は、運営推進会議を開催していない。入居者との面会や、施設見学も制限しているが、動画や写真を活用し、日々の生活がわかるよう伝えるように努力し、ご家族や、近隣住民に向けてアンケートも実施した。アンケートを基に、取り組みはまだ出来ていない。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	コロナ対策が中心だが、市町村等からの情報は、確認し、職員全体に解るよう、ファイルを作り、配布した。また、YouTubeなど、コロナ対策動画などがアップされた際は、全職員、視聴出来るよう整え、勉強会も開催した。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関の施錠や、寝室周囲も入居者の動きを制限することの無いよう、環境には配慮している。また、言葉による抑止や、立ち合いのもとであれば出来る可能性がある活動も職員が行うことがある。入居者の能力を奪っているかもしれないと気づかないこともあり、カンファレンスを通し、個別にきちんと議論している。また、委員会も設置している。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	身体拘束・虐待防止委員会を設置し、事例を基にした、勉強会を委員会のメンバーを中心に企画し行っている。困難事例は、事業所全体で考え、虐待へと繋がることの無いよう、対応策を検討している。		

8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	入居者の中に何名か、成年後見人制度を利用されている方がおり、入居にあたって十分理解できているか、ミーティングを利用し理解の浸透を図っている。また、参考資料を誰でも見ることが可能のようにしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書と重要事項説明書の説明とともに、疑問点や不安な点も丁寧に聴き納得された上で契約している。来年度、利用料の改定を行う予定であるが、施設所長、各ユニット主任が共同で入居者1人1人、家族に丁寧に説明し、同意と、施設に対するご意見要望を尋ね、記録に残し反映できるよう努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	コロナ禍の状況であり、ご家族との面会も自粛をお願いしている。そこで、毎月の入居者様の様子を個別にお手紙や、施設での様子を動画撮影し、映像で見てもらう取り組みを行った。また、アンケートも作成し、施設に対する要望や、不安な点などの聴き取りを行った。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	運営に関する会議を随時開催し、法人の方針や事業所の取り組みについて話し合いを行っている。また、職員の悩み、入居者へのアプローチについてなど議論し聴く機会ともしている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	各職員の得意分野を生かし、それぞれに仕事を任せたり、中心になり働いてもらう機会を作るようにしている。(研修大会への発表者としての抜擢など)また各職員は目標を立て、それに向けて努力している。上半期・下半期と目標や、悩みなどしっかりと話し合いを行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	各ユニット主任間で職員の情報交換を行い、育成の悩みであればアドバイスや、施設内外の研修参加についても、議論し決定している。また、研修への参加など、スキルアップに向けての取り組みに参加する場合も対象者には丁寧に説明している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人のグループ間で、看護師や理学療法士、栄養士などと、様々な立場からの意見を出し合っの入居者ケア会議を開催しています。(絆会議)訪問し、多職種連携を学んでいます。		

Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援

15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前の事前アセスメント(本人・家族と面談し、生活史や興味関心ごと、家族がどのように対応し、また、大変であった面など十分に聞き取り)に力を入れ、書類も整えている。事前見学も受け入れ、繰り返し情報収集することもある。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前の事前アセスメントにて、施設に対する要望、入居によって生じる不安を丁寧に聴き、対応している。その中で、見学以上に、施設利用体験などが必要であれば実施してみるなど、幅広く入居に伴う不安を取り除くために行っています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前の段階で本人の思い、家族の思い、状況を確認しながら、しっかりと話しをしたうえで支援するように努めている。状況によってはグループ内の多職種連携を図り、様々な視点(カンファレンス)を取り入れながら検討しています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	毎日を共に過ごす家族として接している。一瞬一瞬を大切にし、職員が全て決定していくのではなく、入居者の「できること」を十分アセスメントし主体は入居者であることを忘れずに対応している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族との関係が希薄化しないよう、電話やお手紙にて、お伝えし、記録にもしっかりと残している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	屋外での活動は制限しているが、生活史の把握には勤め、回想をもとにお話を定期開催し、興味関心ごとを見つけ、有意義に過ごすことが出来るように支援している。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日ごろの生活を良く良く観察して、時に強化できるような行事を企画している。(書道サークルなど)入居者の中で気にかけてくれる人がいたり、調理には誘い合っで行う姿もある。		

22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居された入居者家族から、同様に、食材や衣類などの寄贈が引き続きあります。ご厚意に感謝し、相談、支援に努めています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	生活の中での表情やしぐさを敏感にキャッチし入居者理解に努めている。個人の生活史の把握はもとより、私たち自身もその時代を理解できるように会話の内容を拾い上げたり、歴史についても勉強している。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族・知人などの面会時、少しずつ把握する様に努めている。日常の会話の中で回想する事により、個々の生活歴などの情報を把握できるよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一日の行動と空間利用の仕方を記録に残している。一人ひとりの生活リズムについては事前面接の際にしっかりと把握しこれまでの生活リズムを入居後も続けていけるように支援している。昼夜逆転など生じぬように色々な刺激となることが提供できるように務めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人や家族から意見や要望、アイデアを聞き作成し、同意を得てサインを頂いている。アセスメントを含め職員全体で意見交換やモニタリング、カンファレンスを行っている。変化に応じて見直しも行っている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子を記録に残し、取り組み実践の把握と共にカンファレンス前の情報収集の一つのため、気づきに関してはきちんと記載するようにしている。記録が中心となりサービス決定は必ずカンファレンスを介して行うことは徹底している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	県外にお住まいのご家族様などは訪問さえ難しい中であり、買い物の代行など、協力行っています。		

29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	これまで、地域へと(屋外へ)出ていくことが中心でしたが、これからは、パソコンやスマートフォン、タブレットなどのIT機器を使って、買い物や、動画を見て楽しんだり、ご家族との面会についても考えていきたいと思っています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医は決められているが、認知症の症状についてなど、専門医への受診も要望によって、いつでも応じている。また、家族からの希望や悩みなどがある際は、かかりつけ医へ相談し、いつでも、話し合いの機会を設けるようにしている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	入居者の様子で医療的な相談が必要な変化があった際は、いつでも、連絡が可能のように連携が取れている。また、看護、介護双方が何かあれば連絡を行うことは日々の会話の中で述べ、周知徹底を図っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	家族、主治医との相談の上、症状などにより受診先を決めている。入院によるレベル低下を防ぐために医師と相談しながら、なるべく早く退院出来るように面会にも頻繁に行き、状態の把握に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に重症化したときの指針はお伝えしている。終末期の段階では、主治医と連携を密に行ったうえで、家族に状況をお伝えしてもらい、心の内の支援は、勉強やこれまでの経験を軸に丁寧に行っていると思う。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	終末期の在り方も含め、急変時の対応はマニュアルを作成(連絡体制や初期対応含め)し、共有できている。事故発生時の検証作業は、事業所長も入り、検証し、その後全体に周知徹底を図っている		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	地震・水害避難訓練(7月)火災消火避難訓練(11月)を入居者とともにやった。昨年の反省が十分に活かされたことや、地域と一体で行うことで職員の気持ちも入り、スムーズに動いている。		

IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

36	(14)	<p>○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている</p>	<p>個人にあった対応をするため、勉強会やミーティングにて、職員間で情報を共有し、誇りやプライバシーを損ねないよう意識の向上に努めている。入浴、排泄等、羞恥心に配慮をして行っている。記録物などの取り扱いにも注意している。</p>		
37		<p>○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている</p>	<p>食事一つにしても要望希望を聞き、必ず調理を勧めている。サインを敏感にキャッチし、希望が理解できるよう、介護技術の向上に努めている。</p>		
38		<p>○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたか、希望にそって支援している</p>	<p>1日の流れをプログラムのように決めることはせず、入居者の動きを観察したり、時には待ったり、言動からサインをキャッチ出来るよう、日々、職員同士意見交換しています。</p>		
39		<p>○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している</p>	<p>家族や本人からこれまでの生活史を中心に把握に努め、これまで使用していた化粧品や整髪料など個々に応じて整えています。髭剃りなど、ご本人で出来るように声かけを工夫しています。</p>		
40	(15)	<p>○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	<p>各個人のできる事を把握し、メニュー決め、食事の準備(調理、味付け、盛り付け)、配膳など、本人のできる範囲でしていただくようにしている。入居者と職員が同じテーブルを囲んで楽しく食事を出来るようにしている。</p>		
41		<p>○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている</p>	<p>食事量、水分量を日誌に記入し摂取量が把握できるようにしている。食事は偏りがないように肉、魚、野菜、果物等配慮しながら、おいしく食べて頂けるよう入居者と一緒にメニューを決めるようにしている。</p>		
42		<p>○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている</p>	<p>洗面所に行き、一人一人の口腔の状態に応じて、ブラシなどの用具を用意している。声のかけ方など拒否のない導入の仕方など話し合いを重ねている。仕上げ磨きの重要性を理解し、必ず確認は行っている。</p>		

43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターンを把握し一人一人に応じた対応を行っている。場所が認識できない、トイレの意味が理解できない、動作の仕方が解らないなど、上手く表現できずに不安を訴える方が増えており、排泄のサインは敏感にキャッチしている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	なるべく薬に頼らないよう、バナナやオリゴ糖等、排便を促せるような食品や、運動をしてもらい、自然な排便が出来るように努めている。便秘体操も導入し、気軽に実践できるよう写真を載せ取り組んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	本人の希望に合わせて入浴できるように確認し準備している。入浴を嫌がる方には入浴前の散歩等気分転換や、時間帯を変えて声掛けをしている。楽しんで入浴できるように月初めには1階大浴場を使用し入浴を行っている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	消灯時間は事前アセスメントから必ずご自宅での生活を参考に決めている。季節に合わせた寝具や、温度調整をし、安眠できるように努めている。日中も午睡をされる方は体調も考慮し、臥床しすぎないように注意し、活動を提供している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方箋を必ず確認し、効果、副作用について理解している。新たな薬が開始となった際は必ず様子確認し記録にと残している。主治医に必ず確認している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	調理一つをとっても、広告を見ながらメニューを決めたり、野菜などを切ったり、味付け、配膳など、一連の工程すべてを一人では難しいが力を合わせ家庭生活を遂行している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	季節に合った外出が出来るように支援している。本人の希望に合わせて、日常的に散歩等を行っている。		

50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現状、自己管理することが難しいため、職員が管理している。財布を持たれている方には、小額を所持して頂き、財布の中身の確認を行っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯電話を持参されている入居者や、要望があれば、固定電話もいつでも使えるようにしている。認知症が重症化している人でも、ご家族様に事前に確認はとっている。年賀状や家族あての手紙、ケアの一環として日記にて日々の様子を伝えたりしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	食事テーブルや、玄関、ペランダに花を生けたり、メダカの飼育や、夏はすだれを掛け温度調整をする等、季節感にも配慮し、過ごしやすい様に工夫をしている。日差しが強い時はブラインドを下ろし、乾燥せぬよう湿度にも配慮している。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	数か所にゆったり過ごすスペースを確保している。共有空間では家庭らしさを大切に配置・さらに事故を気を付けるうえでの整理整頓もきちんと行っている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で使われていた鏡台や、タンス等持ってこられ使用されたり、御家族が、写真や人形等持ってこられ、居室に飾られている。また、テレビや、冷蔵庫を使用されている方もおり、自由に居室で過ごされている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレ、浴室には、文字で場所を示したり、浴室前にのれんをかけ、視覚でわかりやすく掲示している。また、認知症が重症化した方に対し、短文とデザイン(トイレの絵)が描かれたコミュニケーションボードを見せ、情報伝達手段のツールとして活用しています。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3471501274
法人名	社会福祉法人常新会
事業所名	グループホームやすらぎ つどいチーム
所在地	広島県福山市曙町3丁目17-5
自己評価作成日	令和3年4月15日
評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 あしすと
所在地	広島県福山市平成台31-34
訪問調査日	令和3年5月12日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

つどいでは、薬の多剤投与(ポリファーマシー)について勉強しました。ポリファーマシーによる副作用が色々あることを知り、チームで減薬に向けてどうすればいいか話し合いました。そこで、主治医との連携が重要と考えました。再度、主治医が知りたい情報を確認した上で、入居者の状態を的確に伝え、病状が落ち着いている薬については、相談のうえ減薬してもらいました。食欲低下や便秘など改善された入居者もいます。今年度は新型コロナウイルス対策のため、入居者と家族の面会が制限されていたため、入居者の様子をより詳しく伝えるため動画を撮り、家族が来所された時に見てもらいました。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所周辺は、大型のスーパーや病院・レストラン・商店などが集まった住宅地域にある。コロナ禍以前には、地域住民との交流を大切にしており、地域に根ざした事業所といえる。また、職員用の保育所が設置されており職員の安心と共に、利用者と園児が芋ほりを楽しむ様子も見られる。優れている点として、①利用者の思いや得意なことを理解し、家事活動(洗濯物たたみや食事づくりなど)を軸にした支援を行なっている。②コロナ禍にあるが、感染予防に留意しながら利用者の希望や回想から昔懐かしい行事の開催や食事支援を行なっている。③利用者の様子を動画撮影し家族に見てもらったり、テレビ電話での面会・短時間の面会などコミュニケーションの工夫に努めている。④ライフチャートで利用者の一日を把握し、アセスメント表・介護計画などの書類の整理・充実がしていることが挙げられる。職員は、利用者の起床から入眠までの一日の流れを大切にしており、朝のあいさつやラジオ体操・夕方の体操など運動状況を把握し、一人ひとりの生活にあわせた自由な暮らしを大切にしている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通い場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)		特定非営利活動法人 あしすと

自己評価および外部評価結果【つどいチーム】

〔セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。〕

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域社会への奉仕と貢献という法人理念を職員が共有し、毎月の地域清掃に参加させてもらっている。今年度は、新型コロナウイルス対策のため、地域の方との関りはほとんどなく、今まで施設で行っていた100歳体操やサロンは出来ていない。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	新型コロナウイルス対策のため、地域の方との日常的な交流はなく、今まで行っていた、近所のスーパーへの買い物も出来ていない。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	今年度は、誠之中学校のチャレンジウィークもなく、地域の方へ認知症の人への理解や支援の方法を話す機会がなかった。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	今年度は、運営推進会議を開催することは出来ていない。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	コロナ対策が中心だが市町村からの情報は、確認し、職員全員が解るよう、印刷し情報共有を図っている。緊急時の連絡体制も確認している。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束委員会を中心に、フィジカルロック・薬のロック・言葉でのロックはどのようなものか勉強し、行動を抑制しないように職員全員で取り組んでいる。日中は、玄関の鍵をかけず、自由に出入られるようにしている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	法人で作成した高齢者虐待についてのビデオ教育を年2回のスケジュールで行っている。入居者にアザなどが見つかった場合は、原因や今後の対応を家族にしっかり説明し、安心して頂けるようにしている。		

8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	法人で作成した権利擁護について、ビデオ教育を年2回のスケジュールで行っている。入居者になるべく自己決定できるように関わっている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所前には、事前面接で、契約に関する説明をしっかりと行っている。家族が不安や疑問がないように気をつけている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱を玄関に設置し、家族の声を頂くようにしている。また、面会時には、家族の思いを聞くようにしている。家族から出された意見はミーティングなどで取り上げ話し合いを行い、問題解決に取り組んでいる。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	施設の運営に関する決定事項は、申し送りやミーティングで伝えており、職員から意見をもらっている。重要事項については、全体説明会を行い、質問がないか確認をとっている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	上司による職員の社会性や専門性について評価しており、給与や処遇改善に反映している。個人面談も行っており、努力する姿勢や実績においてしっかり評価することを伝え、向上心を上げている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	今年度は、外部の研修に参加しているが、法人内で認知症ケア学会のWeb視聴会を開催し、最新の認知症ケアを学んだりした。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	今年度は、同業者との交流は出来ていない。		

Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援

15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に事前面接を行い、本人から不安な事や困っている事、要望を聞き出している。身体状況なども確認させてもらい、入居後なるべく困らないようにしている。また、本人に寄り添い不安の訴えがあれば傾聴している。話した内容は必ず記録し、職員同士で情報を共有するようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	事前面接では、家での様子や困っている事、不安に思っている事をしっかり聞くようにしている。入居後、面会時には必ず、GHでの生活の様子を伝えるている。また、家族からの要望を聞き、家族ノートに記録し、職員全員で情報を共有している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人と家族の状況を把握し、事前に来て頂くなど必要な支援している。当GHで対応できない場合もあり、その場合は理由を説明し、ケアマネとも協力して他サービスもあることなど紹介し、対応するようにしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は家族の一員として入居者と接しており、家事活動では、入居者の残存機能を活かすように取り組んでいる。また、食事作りでは、入居者さんに味付けや調理の仕方を教えてもらいながら、共に支え合っている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	今年度は新型コロナウイルス対策のため、ほとんど入居者と面会することが出来なかったが、入居者の様子を映した動画を面会時に見てもらったり、電話で様子を伝えるようにした。同時に必要な物品などは家族にお願いし持って来て頂いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	今年度は、どこへも出かけることが出来なく、馴染みの人に会ったり、馴染みの場所に行くことは出来なかった。電話で話したい入居者には自由にかけてもらい、妹など身近な人に電話している。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者の関係性をしっかり観察をし把握することで、食事の席や居間での過ごす場所などを考えている。入居者が一番集う場所では、毎朝体操をしたり風船パレーなどで入居者同士のコミュニケーションを図っている。		

22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院後、グループホームへ復帰できなかった方がおられたが、他施設へ転居する際、家族の悩みや今後についての相談にのっている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	話ができる入居者は、日々の会話から本人の思いや希望を把握するように努めている。自ら思いを伝えられない入居者には、生活歴や家族の情報からケアを行い、反応の良いものを探すよう努めている。特に表情の変化には注視している。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	事前面接で、ある程度の生活歴や馴染みの暮らし方などは本人や家族から聞くようにしている。入居後は、回想や家族の情報から慣れ親しんだ生活を把握しようとしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ライフチャートで入居者1日の生活を記録しており、担当職員は、月2回のカンファレンスで、2週間の生活の様子や身体の状況、心理的な問題などをまとめ、チームのみんなに情報を伝えており、把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	月2回のチームミーティング時に、職員みんなでカンファレンスを行い、それぞれの意見やアイデアを聴いている。また、職員だけでは判断できない事は、それぞれの専門職にも相談し、介護計画を作成している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	入居者ごとに、日々の様子をライフチャートへ記録している。状況だけではなく、入居者の言動や行動、それに対する職員の対応、ケアへの反応や気づきを記録している。担当者は、記録から必要な情報を抜きだし、カンファレンス時に報告し、取り組みの見直しも行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族との関係性を重視し、病院受診など家族が協力できる場所はお願している。他施設にいる奥さんや友人になるべく会えるように、施設間での調整を行っている。		

29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	今年度は、地域の行事がなく出かける機会 はほとんどなかったが、天気のいい日は近所の公園に散歩へ出かけ、公園に咲いている花を見たりして楽しんだ。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	認知症について理解のある主治医が毎週往診に来て下さる。入居者に急な状態の変化があった時は、家族へ丁寧な説明をして下さり、専門性の高い治療が必要なときは、主治医が紹介状を書いてくれ、適切な医療を受けられるように支援してくだっている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週に一度は、かかりつけ医に入居者の状態をFAXで伝えている。また、入居者が急に体調不良になった場合は、すぐにかかりつけ医に連絡し、指示を受けている。夜間や休日は、直接主治医の携帯に連絡している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には、必ず職員が病院へ一緒に付いて行き、入居者について情報を伝えている。後日、介護添書を持って行き、日々の様子やADLなどの細かい情報を伝えている。今年度は面会が出来なかったため、入居者の状態の把握が難しかったが、家族が病院で聞いた話を検討しながら早期退院に向けて家族と協力して動いた。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居者の状態が悪化した場合、主治医と家族、職員とでムンテラを行い、家族の希望を確認している。GHで看取りを希望される場合は、家族に事業所でできる範囲のことをしっかり伝えるようにしている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	社内研修で救急対応について講義を受けている。看護師による雑学に加え、現場を想定した実施訓練もしている。緊急時のマニュアルを作り、職員がいつでも見れるようにしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回、避難訓練を行っている。洪水災害を想定した場合は、3階へ避難したり、火災訓練では、初期消火や避難誘導、手作りの担架を作成し、要救助者へ対応などを行っている。地域の方を交えて避難訓練を行った時もある。		

IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの人格・プライバシーを尊重し、声掛け・介助の仕方・態度について職員間で確認し話し合いながら最適な対応が図れる様に支援を行っている。関係性によっては、愛称で声をかけたりもする。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人が何をしたいか尋ね、自己決定できるようにしている。家事活動やレクリエーションの参加も、本人の意思を尊重し、無理強いはしないようにしている。
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者一人一人のペースを尊重し思いのまま過ごして頂けるように配慮している。特に日課があったり、時間をみて行動する入居者には、本人の希望通りに出来るよう支援している。
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	起床時に洗面所で身だしなみを整えてもらっている。個人で化粧道具を持っている方もおられるが、無い方はチームでも化粧道具を用意しており、いつでも使えるようにしている。男性の場合、自分で髭剃りが出来ない方は介助で剃っている。
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	料理が大好きな入居者が率先して食事作りに参加している。食材切りで上手くできなかったとしても途中で止めたりはせず、本人の思うようしてもらいややる気が失せないようにしている。盛り付けや片付けも入居者がほぼやってくれており、職員は必ずお礼を伝えている。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	体重が増えすぎている入居者には、ご飯の量を調節し、おかずをなるべく食べてもらうようにしている。栄養状態を考え、大豆の煮豆や卵など、タンパク質が多いものをより多く提供している。水分を中々摂られない方には、容器や嗜好品、温度など本人にあった物を検討し、提供している。
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	本人に歯磨きをしてもらっているが、自力で出来ない方は、職員が介助してやっている。夕食後は全入居者に磨き残しがないか確認し歯間ブラシやタフトブラシで残渣物を丁寧にとっている。入れ歯は毎日洗浄剤につけている。

43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	自力でトイレに行かれない方は、排泄パターンを調べてトイレ誘導をしている。また、尿意を感じた時の、サインを見逃さないように、職員間で情報を共有している。トイレの認識が難しい方には、イラストを便器に貼るなどして理解しやすいように工夫した。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	チームで便秘について勉強会を行い、便秘の原因、運動療法や食物療法などの予防法をしらべ、取り組んでいる。起床時に白湯を飲んだり、腸の蠕動運動を促す体操や腹部マッサージを行い、排便を促すようにしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴前には本人の意思を確認し、毎日入浴したい人は、入ってもらおうようにしている。入居者の習慣や愛用のシャンプーなどがあれば、個々にそった支援ができるようにしている。熱い湯やぬるめなど好みによって、声をかける順番も考えている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	眠気を感じたら、入居者自ら居室へ戻られ休まれているが、転倒のリスクが高い人や見守りが必要な方は、和室やソファを利用して休息をとってもらうなど、安全にも配慮している。家族に入居者の生活習慣を確認しおり、昼寝の時間など把握している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	各入居者の薬の目的・副作用の情報は、Drノートで保管し、いつでも確認できるようにしている。服薬後、症状に変化があれば、すぐに主治医に連絡し指示を受けれるようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居者の楽しみごとや張り合いを普段の会話などから探り、何度も出て来るフレーズなどは職員間で情報共有している。縫製の仕事をされていた方には、雑巾や枕カバーなど縫ってもらい利用させてもらっている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	今年度は、買い物や行事などの外出支援はなかったが、本人が希望すれば近所の公園へ散歩に出かけた。また、車でドライブをするなど気分転換に務めた。		

50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自分でお金を持っていたい入居者には家族の了解の上、お小遣いの一部を本人に持ってもらっている。今年度は、買い物に行くことは出来ていない。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	入居者が電話したいと訴えがあれば、自由にかけられるようにしている。自力で難しい方は、職員が代わりにかけてあげている。携帯電話の所持も自由にしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者が今の季節を感じれるように玄関や廊下、居間には季節の花や飾りをするようにしている。共有空間には、温度・湿度計を設置し、確認しながらエアコン調整や加湿器などを使用している。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有空間には、数か所にソファやイス、テーブルを置き、思い思いに過ごせるようにしている。また、居間以外に和室にもテレビを用意し、他入居者と違うテレビが見たい時などは、自由に見えるようにしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族には、使い慣れたタンスや馴染みの道具を持ってきてもらい、本人が落ち着きやすい環境を整えるようにしている。また、家族からの手紙や家族の写真などを貼り、寂しくないようにしている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室は本人の名前を表札にかけたり、入浴場は温泉マークで暖簾をしたり、トイレは扉の色を変えるなど、入居者がわかりやすいように工夫している。トイレの使用がわからない認知機能が重度に低下している方には、文字ではなくイラストで表示したりしている。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3471501274		
法人名	社会福祉法人常新会		
事業所名	グループホームやすらぎ かたらいチーム		
所在地	広島県福山市曙町3丁目17-5		
自己評価作成日	令和3年4月10日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 あしすと
所在地	広島県福山市平成台31-34
訪問調査日	令和3年5月12日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

家事活動の中で、食事作りは入居者と一緒に行っています。しかし、盛り付けや配膳は職員が行っていました。出来る入居者もおられ、それではいけないと反省し、盛り付けや配膳も入居者にしてもらおうにしました。配膳も行きやすいように工夫しながらしています。洗い物も入居者に任せています。出来る事はどんどんやらせてあげようという思いで日々取り組んでいます。また、楽しみ事を見つけたいということで、歌会や風船バレーを行っており、皆さん楽しそうに参加されています。運動機器を使用し運動を行ったり、体操を毎日行い、今の状態を維持できるよう頑張っています。入居者が元気に過ごせるよう、職員同士協力しながら取り組んでいます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所周围は、大型のスーパーや病院・レストラン・商店などが集まった住宅地域にある。コロナ禍以前には、地域住民との交流を大切にしており、地域に根ざした事業所といえる。また、職員用の保育所が設置されており職員の安心と共に、利用者と園児が芋ほりを楽しみ様子も見られる。優れている点として、①利用者の思いや得意なことを理解し、家事活動(洗濯物たたみや食事づくりなど)を軸にした支援を行なっている。②コロナ禍にあるが、感染予防に留意しながら利用者の希望や回想から昔懐かしい行事の開催や食事支援を行なっている。③利用者の様子を動画撮影し家族に見てもらったり、テレビ電話での面会・短時間の面会などコミュニケーションの工夫に努めている。④ライフチャートで利用者の一日を把握し、アセスメント表・介護計画などの書類の整理・充実がしていることが挙げられる。職員は、利用者の起床から入眠までの一日の流れを大切にしており、朝のあいさつやラジオ体操・夕方の体操など運動状況を把握し、一人ひとりの生活にあわせた自由な暮らしを大切にしている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	特定非営利活動法人 あしすと		

自己評価および外部評価結果【かたらいチーム】

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自 己	外 部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	いつでも見られるように玄関や事務所に貼っている。共有できるようにしている。ケアなどで困った時に、理念を振り返り、考えられるようにしている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内の文化祭には作品を展示したが、コロナのため行事には参加出来ていない。月1回の地域清掃には必ず参加し、地域の一員として交流するようになっている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	百歳体操について、コロナ禍ということもあり、中止している。また、事業所で行っている祭りも中止となった。地域の方との交流は少なくなった。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営会議について、2ヶ月に1回行う予定だったが、コロナ禍のため中止し行っていない。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	コロナ対策が中心だが、市町村等からの情報は、メール等確認し、ファイルにして、職員全員が目を通すことが出来るよう整えた。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	入居者が自由に動けるように玄関や居室、ベランダの鍵はかけていない。また、入居者が立って動き出してもすぐには止めず、様子を見るようにしている。身体拘束をしない為に、職員全員で理解し、ケアするようになっている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	チームミーティングの時に、事例を使って意見をそれぞれ出し合い、話し合うようにしている。困難事例の際は、ユニットだけでなく事業所全体で話し合い、虐待防止に努めている。		

8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	法人の研修に、権利擁護に対する講義がある。また、事業所にも資料があり、いつでも見られるようにしてある。居宅・包括支援センターの職員といった他職種との交流も図るようにしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約については、重要事項説明書を基に説明している。納得されたうえで契約している。解約については上司立ち合いのもと、お互いが納得したうえで解約するようにしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族が来られた時に何か要望があるか尋ねるようにしている。もし言われた時は、家族ノートに記入し、全員が把握できるようにしている。ミーティングの時にも再度伝えるようにしている。家族と何でも話してもらえよう関係性になれるよう努力している。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月2回リーダーミーティングを行っている。連絡事項や各ユニットの入居者の様子などを報告し、情報共有できるようにしている。職員の意見があった場合も議題にあげ話し合うこともある。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	各主任は、法人が作成した評価表を用いて、職員一人ひとりの評価を行っている。その後、1人ずつ面談を行い、新たな目標を立てている。それぞれの得意分野を生かしながら仕事ができるよう努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	実践能力開発プログラムを使って、それを基に指導している。研修ノートもあり、それでも指導できるようにしている。日々の業務でも指導している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	コロナ禍のため、他施設への研修が行えず、交流する機会もなかった。		

Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援

15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居当初は、新しい環境ということもあり、慣れない事や不安に思うこともあるので、本人の話をしっかり傾聴するようにしている。ミーティングの時に、本人の様子などどういふふうにしていくかを話し合い、情報共有に努めるようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居の際に、家族が困っていることや不安に思っていることを聞き出し、アセスメントやミーティングなどで、どのような取り組みを行っていくか話し合い、家族に報告するようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	自分で思いが言える方については、話を聴き、難しい方については行動を観察するようにしている。家族にも話を行ない、何を必要としているのか探っていき、支援できるように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	食事作りや洗濯、掃除などといった家事活動は、職員が行うのではなく、入居者と一緒に行うようにしている。また、喜びや不安なども一緒に共有できるような関係になれるよう努力している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	コロナ禍ということもあり、面会が難しい状況で、家族が来られた時は日々の様子を伝えるようにしている。また、手紙や写真を送るようにしている。家族にも要望がないか尋ね、今後どのような支援をしていくか話すようにしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	今までは正月や誕生日の時などは、家族と外出・外食をされていたがコロナになってから出来ていない。施設内で行った誕生日会や行事など、家族に何をを行ったか伝えるようにしている。写真を見せることもあった。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	家事活動の時は、職員と入居者が一緒にするようにしている。また、入居者同士が交流できるように支援している。入居者が孤立しないように職員が傍で過ごすようにし、関わりが上手くいくように努めている。		

22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	転居があった場合でも、関係性を終わらせるのではなく、その後の様子などいつでも話ができるようにしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	自ら思いを言える方については、要望を聴くようにしたり、言ってこられることもある。それが難しい方については、まずは本人に聴くようにしたり、行動の観察や家族と話をし検討するようになっている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	面談の時に、本人と家族から生活歴を聴き、それを書き出し職員全員で共有できるようにしている。入居してからも、普段の会話の中から聞き出し、それを記録に残すようにしている。また、ミーティングで情報共有するように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	何をして過ごしたいのか聞くようにし、自分で言える方は答えられることもある。難しい方については、表情や動きを見ながら把握するように努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日々の様子や発言などを記録に残し、どのような取り組みが良いのか、家族や職員と話しをしていき、意見や要望を反映させ、ケアプランを作成するようにしている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子や発言、その他気付いたことや行動などをライフチャートに記録し、月2回行っているカンファレンスで報告し話し合うようにしている。また、申し送りの時にも伝えるようにし、情報共有に努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	コロナ禍ということもあり、他ユニットとの交流は出来なかった。自分たちのユニットだけにはなるが、なかなか外出が出来ないので、施設内で出来る行事は行った。		

29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ禍のため、事業所で行っている祭りは開催できず、地域との交流も出来なかった。地域清掃には職員が参加している。入居者が迷子になった場合は、交番にも協力してもらおうようにしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	主治医は決まっており、毎月通院している。コロナが広まった時は、通院ではなくFaxで状態を報告し、薬を取りに行くようにしていた。他の病院へ受診するようになったり家族より要望があった場合は、家族に協力してもらい受診してもらっている。その際は、情報共有をしっかりと行うようにしている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	体調の変化や気付いたことがあった際は、受診時や往診時に主治医に報告している。処置が必要な場合もお願いしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院となった場合、施設での様子を病院側へ伝え、病院と情報交換を行うようにしている。上手く連携が取れるようにしている。病院へ面会に行った際は、状態を聞いて、その情報を職員全員で共有できるようにしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居者に少しでも変化がみられたら、そのつど報告するようにし、主治医・職員・家族が連携を取れるにしている。また、家族が不安に思っていることや今後どのようにしていくか、家族と主治医が話が出来るように場を設けるようにしている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時や事故発生時の対応については、マニュアルがあるので、それを見て職員全員が対応できるようにしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	訓練を定期的に行っている。また、避難経路の確認や消火器の使い方学んでいる。		

IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入浴やトイレの声かけをする時は、羞恥心があるので、気を付けている。誇りやプライバシーを損ねないよう声かけには工夫するようにしている。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	何がしたいか、食べたいかなどをまずは入居者に聞くようにしている。また、答えられるように選択肢を作り聞くようにもしている。自己決定が難しい方については、家族の方に聞くようにしている。
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者一人ひとり、それぞれペースがあるので、職員の都合ではなく、本人のペースに合わせた支援を心掛けている。また、その日の体調もみていきながら支援するように努めている。
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	いつでも化粧が出来るように道具は揃えている。身だしなみにも気をつけ、男性入居者にはひげそりの声かけもしている。
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事のメニューは職員が決めるのではなく、食材を見ながら入居者と一緒に決めるようにしている。難しいようであれば、選択肢を作り決められるように工夫している。調理も一緒に行っている。洗い物や台拭きなど出来ることは入居者にしてもらっている。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食べる量は、一人ひとり調整している。水分量は一日1000ccを目標とし、達成できるようにコップの大きさや好みに合わせ提供している。
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	起床時と毎食後に歯磨きや義歯を洗うようにしている。また、重度の方については、口腔ケア用ウェットティッシュを使い、口腔内の清潔に努めている。

43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターンを調べる時は、排泄チェック表を用いている。時間を見ながらトイレ誘導を行い、トイレで排泄できるよう支援している。重度の方で、座位が保てる方についてはパット更新だけでなく、トイレに座ってもらい排泄できるようにしている。また、トイレのサインを見つけるようにも努めている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	豆乳や牛乳、寒天ゼリーなど、便秘に効果のある物を提供している。また、トイレに行った際には、腹部をマッサージするようにしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴の時間は決めていない。本人が入りたいと思う時に入れるようにしている。入浴拒否のある方については、声かけを工夫したり勤務者同士で協力しながら対応している。また、体調不良などで入浴が出来ない時は、清拭や陰部洗浄を行い清潔を保つようにしている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ゆっくり休めるように、温かい飲み物を提供したり、一緒に座ってゆっくり話をするように努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬局でもらう薬の説明書をDr.ノートに綴じている。効能や副作用について理解し、情報共有するようにしている。薬は職員が管理し、飲み忘れや飲み間違いがないようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活歴の中から、一人ひとりの出来る事を把握し、その人に合った役割をしてもらうようにしている。天気の良い日は、気分転換に散歩に行くようにしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	買い物はコロナのため行けていないが、近くの公園まで散歩に行ったり、施設周辺を歩くなどして少しでも気分転換になれるよう努めている。		

50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	一人ひとりの財布があり、必要な物や欲しい物はそこから買うようにしている。お金の管理は職員が行っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族と電話がしたいと訴えがあった際は、電話出来るようにしている。また、手紙が届いた時は、本人に渡し、見てもらっている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節にあった物を一緒に作って飾ったり、習字で書いてもらったりして季節感を取り入れるように努めている。玄関に飾る花も入居者に生けてもらうこともある。ブラインドで日差しの調整をしたり、室温の調整も行ったりと居心地よく過ごせるようにしている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	一人ひとりが好きな場所で過ごせるように、イスをいくつか置くようにし、居場所の工夫をしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人がよく使っていた服や家具などを家族の方に持ってきてもらい、それを居室に置き居心地よく過ごせるように工夫している。また、写真も飾ったりし落ち着けるようにもしている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	浴室やトイレには手すりが設置してある。手すりを持ちながら自分で行ってもらうようにしている。少しでも自立した生活が出来るように支援している。		